

鉄道博物館からのお知らせ

第2回企画展 開催のお知らせ

鉄道博物館スペシャルギャラリーにおいて、第2回企画展を開催いたします。
詳細は下記の通りとなります。
みなさまのご来館をお待ちしております。

開館以来4ヶ月が過ぎ、来館者数も2月25日に80万人を突破いたしました。
鉄道博物館にご支援、ご協力をいただきありがとうございます。
今後とも鉄道博物館をよろしく願いたします。

記

タイトル：中央線ものがたり～去りゆくオレンジ色の電車と変わりゆく町

開催趣旨：2006年12月より営業運転が開始されたE233系車両の導入にともない、2008年3月に中央線からオレンジ色の201系車両の多くが引退します。その201系の引退を記念した企画展です。
120年近い歴史を持つ中央線のうち東京～高尾間の歴史をたどり、“中央線文化”とも呼ばれる独特の文化圏を形成してきた沿線の風土・文化についてもご紹介いたします。
鉄道に関心をお持ちでない方にもお楽しみいただける内容です。

開催期間：2008年3月19日(水)～2008年6月23日(月)

開催場所：鉄道博物館 スペシャルギャラリー1 (約300㎡)

主 催：鉄道博物館

入 場 料：無料(鉄道博物館入館料は必要となります)

展示構成

1. 中央線電車区間(東京～高尾間)のあゆみ

1889(明治 22)年の甲武鉄道による新宿～立川間開業以来の中央線のあゆみを所蔵資料と写真でたどります。

主な展示資料：甲武鉄道許認可関連文書、計画路線図(一直線の図)、蒸気車往復繁栄之図(錦絵)、各駅構内図(戦前)、「特別快速」ヘッドマークなど

2. 車両の変遷

1904(明治 37)年の電化以来、常に各時期の最新型が投入されてきた通勤型車両を所蔵資料と写真・模型で紹介します。

主な展示資料：デ 968 形、ナデ 6110 形、モハ 40 形、モハ 51 形、73 系、101 系、201 系、E233 系写真・模型など

3. 201 系再現

1979 年以来中央線で活躍し、このたび引退を迎えた 201 系電車の運転席、車内の様子について実物部品を用いて再現します。正面列車種別表示機・側面行先表示機は可動状態で展示します。

主な展示資料：「省エネ電車」ヘッドマーク、201 系車号板、運転台ユニット・チョッパ制御・回生ブレーキ回路(マスコン・ブレーキ操作により、オシロスコープで波形、模擬回路でチョッパ音等を再現)、室内再現(ロングシート一列分)、パンタグラフ(PS21、PS35C の 2 台を可動状態で展示)

4. 変わり行く駅と町

戦前期から市街化の進んでいた中央線の沿線は、駅ごとに個性的な繁華街が形成され“中央線文化”とも呼ばれる独特の文化圏を育んできました。

こうした中央線の文化的側面を紹介します。

さらに主力車両の交代、三鷹～立川間の高架化工事の進展により中央線を取り巻く風景が大きく変化しようとしている現在、変わりゆく沿線の風景について写真を中心に紹介します。

展示予定写真



東京駅での101系(モハ90形式)展示会 1957年7月4日 撮影:生方良雄
デビュー当時初めてお披露目された101系電車(初代オレンジ色の電車)



「省エネ電車」201系の出発式 1979年8月20日 撮影:佐藤利生
中央線から多くが引退する 201 系電車のデビュー当時の姿。消費電力の少なさから「省エネ電車」と呼ばれた。